

14.5-187



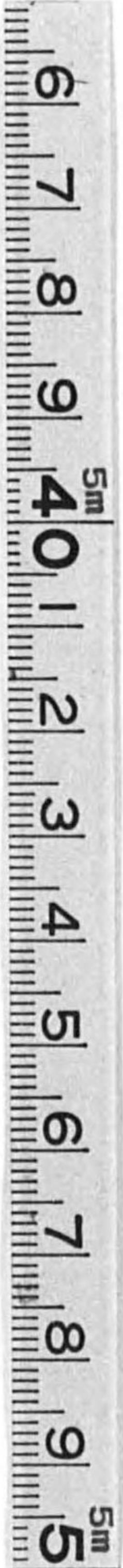
1200501215168

本邦ノ養兎

農林省畜產局

畜產彙纂第二三號

昭和四年三月



始



14.5-187

本邦ノ養兎

目 次

一 緒 言

一

二 地方別飼養戸數及飼養頭數	二
三 各地方ニ於ケル生産並販賣狀況	二
(1) 生兎ノ販賣數量及其ノ價額	四
(口) 兔肉、兔毛皮ノ生産並販賣數量及其ノ價額	四
四 各地方ニ於ケル飼養狀況	一
(1) 道府縣ニ於ケル養兎事業ノ沿革	一
(口) 道府縣ニ於ケル主ナル飼養地	二五
(八) 主ナル種類及其ノ分布狀況	二五
五 禿肉、禿毛皮ノ主ナル需要者及加工業者並其ノ取扱數量	四二
六 養兎ニ關スル主ナル團體	四三
七	四七



- 七 農家ニ於ケル養兎經營事例 五三
 八 道府縣ニ於ケル獎勵施設 五七
 九 養兎ノ將來 六〇

附 記

- 兔毛皮輸出狀況 六八

本邦、養兎

日

文

本邦の養兎

一 緒 言

本邦ニ於ケル養兎ノ沿革ニ關シテハ記録ノ徵スベキモノ尠ク之ヲ詳述スル事困難ナリト雖一般農家の副業トシテ之ガ普及ヲ見ントスルニ至リタルハ極メテ最近ノ事ニ屬ス然レドモ愛玩用トシテノ飼養ハ相當古クヨリ行ハレタルモノ、如ク明治ノ初年ニ於テ既ニ之ガ全國的流行ヲ見タル事アリ降ツテ日清日露ノ兩役後即チ明治三十三、四年及同四十三、四年ノ頃之ガ價格ノ昂騰竝各種ノ獎勵施設ニ伴ヒ大規模ニ之ガ飼養ヲ試ミル者各地ニ現レ一時全國的ニ流行ヲ來タセシモ當時一般飼養者ハ其ノ眞義ヲ解セズ徒ラン流行ニ走リ投機的ニ流レタル結果販路之ニ伴ハズ各地ニ於テ著シキ弊害ヲ生ジ漸次衰退スルニ至リ然ルニ歐州大戰ノ勃發ニ際會シ軍需品トシテ相當ノ需要ヲ見ルニ至リ斯業再ビ擡頭シ爾來價格ノ變動ニヨリ盛衰アリタリシモ輓近歐米各國ニ於ケル兎毛皮ノ需要增加ニ伴ヒ各國共ニ養兎業ノ勃興ヲ見ルニ至リ本邦ニ於テモ大正九年頃ヨリ兎毛皮ノ海外輸出ノ途開ケ同十四年政府ニ於テモ農家の副業トシテ之ガ飼養ヲ獎勵セル結果一般農家ニ於ケル堅實ナル副業ノ一トシテ漸次發達スルノ氣運トナレリ本稿ニ於ケル所載ノ事例ニ就キ其ノ概要を記す

兎毛皮ハ本邦ニ於ケル主ナル畜產物ノ一ニシテ其ノ輸出額ノ如キモ昭和二年ニ於テ百七十六萬圓餘ニ
達シ本邦输出畜產物中重要ナル地位ヲ占ムルニ至レリ

大正十五年昭和元年度ニ於ケル本邦養兎ノ概況ヲ見ルニ總飼養戸數三十四萬餘戸、其ノ飼養頭數百三十八萬頭、同年中ニ於ケル兎肉ノ生産數量二十三萬貫、兎毛皮ノ生産數量八十一萬餘枚ニ達シ農家ノ副業トシテ全國的ニ普及シツ、アリ就中其ノ飼養ノ盛ナルハ長野、福島、茨城、千葉、栃木、愛知、宮城、埼玉等ノ諸縣ニシテ各地之ガ獎勵施設ヲナシ其ノ穩健ナル發達ヲ期シツ、アリ

二 地方別飼養戸數及飼養頭數 (昭和元年十二月末現在)

(1) 生兎ノ販賣數量及其ノ價額

仲考 仁兄曰人生得遇四个月之福者十人也

(口) 兔肉、兔毛皮ノ生産販賣數量及其ノ價額

七

合 兒	島 崎	分 本	崎 賀	岡 知	媛 川	島 口	島 廣	山 德	香 福	佐 長	熊 鹿	宮 大	大 熊	愛 福	高 佐	佐 高	愛 香	德 山	廣 山	
九六〇、六九二	一、六八八	一、六八二	一、二八九	一、〇九三、九〇二・九五	三、六三〇・〇〇	四一九・四〇	生兔一頭ニ付平均價格一圓十四錢	特記スペキ數ハナキモ成兎ノ價格ハ地方ニ依リ著シキ差異ア リテ一頭ニ付五十錢乃至二圓ニシテ一般ニ白色種ヲ好ミ價亦 高シ取引ハ個人間ニ行ハル、ノミ 生兎ノ取引ハ殆ド村内ニノミ行ハレ通常仲買人又ハ直接ニ販 賣ス種類ハ白色ノモノ、ミニシテ少數ハ熊本縣ニ移出セラル	一、八三九・〇〇	二、二八二・〇〇	五、三二四・五七	一、八三九・〇〇	二、二六二・〇〇	七、九〇二・四〇	一、八一八・三〇	六、八三九・四六	三、一三二・九〇	四、九六七・〇〇	二、五九九	二七四
九六〇、六九二	一、六八八	一、六八二	一、二八九	一、〇九三、九〇二・九五	三、六三〇・〇〇	四一九・四〇	生兔一頭ニ付平均價格一圓十四錢	特記スペキ數ハナキモ成兎ノ價格ハ地方ニ依リ著シキ差異ア リテ一頭ニ付五十錢乃至二圓ニシテ一般ニ白色種ヲ好ミ價亦 高シ取引ハ個人間ニ行ハル、ノミ 生兎ノ取引ハ殆ド村内ニノミ行ハレ通常仲買人又ハ直接ニ販 賣ス種類ハ白色ノモノ、ミニシテ少數ハ熊本縣ニ移出セラル	一、八三九・〇〇	二、二六二・〇〇	七、九〇二・四〇	一、八一八・三〇	六、八三九・四六	三、一三二・九〇	四、九六七・〇〇	二、五九九	二七四	二九八	一、九〇〇	
九六〇、六九二	一、六八八	一、六八二	一、二八九	一、〇九三、九〇二・九五	三、六三〇・〇〇	四一九・四〇	生兔一頭ニ付平均價格一圓十四錢	特記スペキ數ハナキモ成兎ノ價格ハ地方ニ依リ著シキ差異ア リテ一頭ニ付五十錢乃至二圓ニシテ一般ニ白色種ヲ好ミ價亦 高シ取引ハ個人間ニ行ハル、ノミ 生兎ノ取引ハ殆ド村内ニノミ行ハレ通常仲買人又ハ直接ニ販 賣ス種類ハ白色ノモノ、ミニシテ少數ハ熊本縣ニ移出セラル	一、八三九・〇〇	二、二六二・〇〇	七、九〇二・四〇	一、八一八・三〇	六、八三九・四六	三、一三二・九〇	四、九六七・〇〇	二、五九九	二七四	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇
九六〇、六九二	一、六八八	一、六八二	一、二八九	一、〇九三、九〇二・九五	三、六三〇・〇〇	四一九・四〇	生兔一頭ニ付平均價格一圓十四錢	特記スペキ數ハナキモ成兎ノ價格ハ地方ニ依リ著シキ差異ア リテ一頭ニ付五十錢乃至二圓ニシテ一般ニ白色種ヲ好ミ價亦 高シ取引ハ個人間ニ行ハル、ノミ 生兎ノ取引ハ殆ド村内ニノミ行ハレ通常仲買人又ハ直接ニ販 賣ス種類ハ白色ノモノ、ミニシテ少數ハ熊本縣ニ移出セラル	一、八三九・〇〇	二、二六二・〇〇	七、九〇二・四〇	一、八一八・三〇	六、八三九・四六	三、一三二・九〇	四、九六七・〇〇	二、五九九	二七四	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇

歌	山根	取	山	良	庫	阪	都	賀	重	知	岡	阜	野	梨	井	川	山	湯	新
岡島烏和奈兵大京齒三愛靜岐長山福石富新	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇																
一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇
二九八	三六二・〇〇	五〇六・〇〇																	
九、五六一	一、二、二八二・〇〇																		
一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇	一、九〇〇	二、六四八・二〇

地方ニ依リ甚シク高低アルモ平均價格一頭ニ付九十錢内外ト
ス
永見矢敷養鬼場ニ於テハ漸次體型改良中ニテ本年度ノ販賣額
ハ昨年ノ倍額ニ上ル見込ナリト云フ、縣立福野農學校ニ於テ
度ニ於テ其ノ頭數五十八頭ニ及ブシテ拂下ゲツ、アリ昨年
度ニ於テ其ノ頭數五十八頭ニ及ブシテ拂下ゲツ、アリ昨年

販賣頭數ハ銅養頭數ノ約二割ニシテ一頭平均一圓二十錢ナリト
ス
販賣頭數ハ銅養頭數ノ約二割ニシテ一頭平均一圓二十錢ナリト
ス
販賣價格ハ一頭ニ付五十錢乃至二圓五十錢ナリト
ス
販賣價格ハ一頭ニ付六十錢乃至二圓仔兔一頭ニ付二十錢乃至三十五
錢ニテ親近知已等ヨリ分譲スルモノ多シ

10

四 各地方二於ケル飼養狀況

(1) 道府縣二於ケル養毛事業ノ沿革

本道ニ於ケル養兎ノ沿革ハ明カナラザルモ明治四十三、四年ノ交藤田某旭川ニ養兎會社ヲ設立シ種兎ノ分譲及生産物ノ買入ヲ行ヒ爾來斯業ニ從事スルモノ各地ニ現レ大正十年道廳種畜場ニ於テ英國ヨリ種兎ヲ購入シテ之ガ仔兎ノ配布ヲ行フニ至リ飼養戸數モ頓ニ増加シ爲ニ大正十三年以降ハ生産過剩ノ状況トナリ一時衰退セシモ近時兎毛皮ノ販路開拓セラル、ニ及ビ再び擡頭ノ趨勢ニアリ

青森縣

大正九年頃一時勃興セル養兎業ハ其ノ後殆ド其ノ跡ヲ絶ツニ至リシモ大正十四年度ヨリ政府ノ助成ニヨリ種兎貸付配付規程ヲ設ケ且組合準則ヲ示シ之ガ設置ヲ獎勵シタル結果各地ニ養兎組合ノ設立ヲ見其ノ數既ニ百三十二ニ達シ漸次進展ノ氣運ニアリ

青森縣

從來本縣ニ於テハ單ニ愛玩用トシテ之ガ飼養ヲ行フモノアリタルモ其ノ數極メテ僅少ニシテ兎肉、兎毛皮ノ賣買殆ド行ハレザリキ然ルニ偶日清、日露ノ兩役ニ際會シ兎肉、兎毛皮ノ價格著シク騰貴スルニ

及ビ副業トシテ之ガ飼養ヲ試ミルモノ激増スルニ到レリ爾來價格ノ變動ニ伴ヒ一進一退アリシモ最近兎毛皮ノ需要竝一般家庭ニ於ケル兎肉利用ノ增加ニヨリ漸次發達ノ氣運ニ向ヘリ

宮城縣

本縣ニ於ケル養兎ノ起源ハ詳カナラザルモ明治初年頃ヨリ趣味的或ハ投機的ニ相當飼養セラレタルモノ、如ク一時之ガ流行ヲ見タル事アリシモ其ノ後漸次衰退シ大正五、六年頃其ノ極ニ達セリ然ルニ大正七年兎毛皮ノ價格ノ騰貴ニ依リ再ビ各地ニ勃興シ大正十四年ニ至リ遠田郡富永村ニ東北養兎普及會ノ組織セラレタルヲ初トシ現在八養兎組合ノ設立ヲ見漸次普及セラレツ、アリ

秋田縣

本縣ニ於テハ明治初年頃ヨリ地兎ヲ飼養スルモノアリ明治二十二、三年ニ至リテ外國種ヲ飼養スルモノ增加シタルモ動モスレバ投機的ニ流レ明治二十六、七年ノ兎價暴落ノ際ニハ各地ニ破產者ヲ續出スルニ至レリ

其ノ後明治四十年頃再ビ勃興ノ氣運ニ向ヒタルモ需要之ニ伴ハズ漸時不振ノ狀態ヲ脫セザリシガ大正十三年以來京濱方面ヨリノ需要増加ニ依リ漸次進展シ來レリ

山形縣

養兎ニ關シテハ記錄ニ存スルモノ尠ク詳細ニ之ヲ知ル事能ハザルモ明治四十年頃ヨリ愛玩用トシテ飼

養セラレタルモノ、如ク之ガ副業的飼養ヲ見ルニ至リシハ大正十一、二年來ノ事ニシテ歐洲大戰後兎毛皮ニ對スル需要著シク增加セル結果漸ク斯業ノ發展ヲ來シ猶組織的ニ之ガ生產ヲ圖ルモノ續出シ飼養頭數ノ如キモ逐年激増シツ、アリ

福島縣

養兎ノ沿革ハ詳カナラザルモ古クヨリ兒童ノ愛玩用トシテ各地ニ飼養セラレタルモノ、如ク大正七、八年頃横濱方面ノ商人ノ宣傳ニ迷ハサレ一時「ベルデアン」種ノ飼養盛ニ行ハレシガ販路之ニ伴ハザリシ爲殆ド失敗ニ終レリ爾來一般農家ニ於テモ漸次兎毛皮ノ生産ヲ目的トスル堅實ナル養兎經營ノ必要ナルヲ自覺スルニ至リ大正十四年縣ニ於テ優良種兎ノ無償配付竝堅實ナル副業養兎ノ獎勵ヲ行ヒタル結果養鷄業ト共ニ農家ニ於ケル有利ナル副業トシテ諸所ニ之ガ飼養ヲ見ルニ到レリ

茨城縣

明治二十七、八年頃ヨリ行方郡、東茨城郡方面ニ少數ノ飼養ヲ見、同四十三、四年頃一時勃興ノ機運ニ際會セシモ概ね愛玩若ハ投機的飼養ニ止シ一般農家ノ副業トシテ普及スルニ至ラザリキ

然ルニ最近國庫補助ニ依リ縣農會ヲシテ大阪方面ヨリ種兎ヲ購入セシメ之ヲ希望者ニ配付シ其ノ生産仔兎一番ヲ返納セシメ更ニ之ヲ他ノ希望者ニ附與シ或ハ種兎購買ノ斡旋ヲナス等斯業獎勵ニ努メタル結果漸次農家ノ副業トシテ堅實ナル發達ヲ見ムトシツ、アリ

養兎ノ沿革ニ關シテハ記錄ノ徵スペキモノ勘ク之ヲ詳カニスル事能ハズト雖相當古ヨリ愛玩若ハ食肉用トシテ飼養セラレタルモノ、如ク大正十三、四年頃ヨリ兎毛皮ニ對スル需要ノ增加並軍隊等ニ於ケル兎肉ノ利用ヲ見ルニ至リ之ガ飼養モ漸次增加シツ、アリ

群馬縣

本縣ニ於ケル養兎業ノ沿革ハ相當古キモノアルモ殆ド兒童ノ愛玩的飼養ニ止マリ農家ノ副業ト稱スル事能ハザリキ然ルニ近年農事實行組合等ニ於テ副業的ニ之ガ飼養ヲ計畫スルニ及ビ一般農家ノ副業トシテ漸次發達スルノ機運ニ向ヘリ

埼玉縣

明治三十二、三年頃一時養兎ノ流行ヲ見タリシガ需要之ニ伴ハズ爲ニ漸次衰退セリ然ルニ近時兎毛皮ノ需要竝學術研究用及食肉用トシテノ消費增加セル結果再び擡頭シ漸次之ガ普及ヲ見ルニ至レリ

千葉縣

明治ノ初年ニ於テ一時愛玩的若ハ投機的養兎ノ流行ヲ見タル事アリ爾來消費地ニ近キ關係上醫學等ノ研究材料トシテ生兎ノ供給ヲ行ヒ來リシモ其ノ需要勘ク生產者亦愛玩用トシテ少數飼養スルニ過ギザリキ然ルニ近時兎肉、兎毛皮ニ對スル需要增加スルニ及ビ大正十三年頃ヨリ漸次之ガ飼養ヲ試ミルモノ増加シ殊ニ同十五年十月縣ニ於テ斯業獎勵ノ爲縣養兎組合聯合會ヲ設立シテ兎毛皮ノ共同販賣等ノ事業ヲ行ハシムルト共ニ軍隊等ニ對スル兎肉ノ販路ヲ開拓スルニ至リ急激ナル發達ヲ遂ゲ養兎組合ノ如キモ既ニ五十有餘ノ設立ヲ見ルニ到レリ

東京府

從來本府ニ於テハ愛玩的飼養者以外副業的ニ飼養スル者殆ドナク其ノ需要亦學校、病院等ノ試驗材料ニ止マリ主トシテ仲買人ノ手ニヨリ埼玉、千葉等ヨリ供給セラレツ、アリシガ大正六、七年頃ヨリ肉ノ需要漸ク起リ横濱等ノ停車場ノ辦當屋、軍隊、鳥肉商等ノ消費者現ル、ニ至リ漸次副業的ニ飼養スルモノ增加セリ更ニ同十二年頃ヨリ兎毛皮輸出ノ途開ケタル爲一層斯業ノ發展ヲ促進シツ、アリ

神奈川縣

本縣ニ於テハ明治四十三、四年頃ヨリ之ガ飼養ヲ試ミルモノアリシモ殆ド愛玩的飼養ニ止マリシガ大正七、八年頃ニ至リ始メテ兎肉、兎毛皮ノ生産ヲ目的トシテ飼養スルモノ現レ其ノ後漸次各地ニ普及シ養兎組合ノ設立ヲ見ルニ至レリ

新潟縣

明治十六、七年頃商人ノ宣傳ニ依リ一時之ガ流行ヲ見タル事アリシモ數年ニシテ衰頽スルニ至レリ然ルニ明治四十年頃横濱方面ニ於ケル兎毛皮ノ需要增加ニ伴ヒ再ビ勃興シ爾來甚シキ盛衰ヲ見ズ大正七

八年頃ヨリ食用竝ニ學術研究材料トシテノ需要激増セル結果漸進的ニ之ガ普及ヲ見ツ、アリ

富山縣

從來副業的見地ヨリ養兎ヲ行フ者殆ドナカリシモ大正十一年頃下新川、水見兩郡ノ一部ニ之ガ飼養ヲ試ミルモノアリ其ノ蕃殖極メテ旺盛ニシテ而モ利用ノ途多キヲ認メ之ヲ宣傳セシ結果爾來該地方ニ廣ク飼養セラル、ニ到レリ

石川縣

本縣ニ於ケル養兎事業ニ關スル記録ナキ爲其ノ起源ヲ知ル事能ハズト雖日露戰役前後ニ於テ防寒用トシテ兎毛皮ノ需要增加シ價格亦昂騰セシ爲副業竝專業トシテ之ガ飼養ヲ試ミルモノ增加シ縣下一般ニ流行ヲ來タセシガ其ノ後一二年ニシテ兎毛皮價格ノ暴落ヲ見ルニ至リ漸次衰退セリ然ルニ茲四、五年來子女ノ愛玩用トシテ飼養スルモノ稍增加ノ傾向ニアリ

福井縣

不詳

山梨縣

古クヨリ縣下一圓ニ亘リテ飼養セラレツ、アリシモ其ノ數極メテ尠ク且種類ノ如キモ雜駁ナリシガ最近兎毛皮ノ需要激増シタル結果其ノ飼養頭數ノ增加スルト共ニ種類モ白色在來種ニ略統一セラレツ

、アリ

長野縣

本縣ニ於ケル養兎事業ハ其ノ沿革極メテ古ク之ヲ詳ニスル事能ハズト雖明治二十五年頃佛國種ノ家兎ヲ飼養スル者アリ當時ニ於テハ殆ド肉用竝愛玩用トシテ飼養セラル、ニ過ギザリキ其ノ後大正元年頃ヨリ毛皮利用ノ目的ヲ以テ之ヲ飼養スル者增加シ來リシガ歐洲大戰後ノ好況ニ乘ジ投機的若ハ專業的ニ之ガ飼養ヲ企ツル者續出シ反テ其ノ發達ヲ沮害セルモノアリタリ然ルニ大正十四年政府ニ於テ之ガ飼養ヲ獎勵スルニ至リ縣ニ於テモ養兎組合ノ設置ヲ獎勵シ種兎ノ無償配付ヲ行ヒタル結果漸次其ノ發達ヲ見ルニ至レリ

岐阜縣

文獻ノ徵スペキモノ無ク其ノ沿革ヲ詳ニスル事能ハズト雖明治初年頃ヨリ既ニ之ヲ飼養セルモノアリ勿論當時ニ於テハ單ニ愛玩用ニ飼養セラレタルニ過キザリシガ明治四十年頃ニ至リ投機的飼養ヲ試ミルモノ增加シ大正八年ニハ養兎組合ノ設立ヲ見團體的ニ經營スルニ至リタルモ價格ノ變動、財界ノ不況等ニヨリ一張一弛漸次衰退ニ墜レリ然ルニ近年兎肉、兎毛皮ノ需要增加ニ伴ヒ漸次堅實ナル發達ヲ見ツ、アリ

靜岡縣

明治十七年頃ヨリ愛玩的ニ各地ニ飼養セラレタルモ廣ク普及スルニ至ラザリキ然ルニ日清戰役ニ際シ軍需品トシテ兎毛皮ニ對スル需要ノ大ナル事ガ宣傳セラレタル結果一時相當ニ飼養セラレシモ需要之ニ伴ハズ忽チ衰退セリ其ノ後明治四十年頃醫學研究材料トシテノ販路拓クルニ及ビ再び擡頭シ大正十三年頃ヨリ兎毛皮ノ輸出增加ニ伴ヒ濱名郡下ニ於テ其ノ飼養頭數著シク增加シ爾來益隆盛ニ向ヒツ、アリ

愛知縣

本縣ニ於ケル養兎事業ノ沿革ニ付テハ其ノ記錄ナキヲ以テ之ヲ詳ニスル事能ハズト雖明治初期ニ於テ既ニ之ガ流行ヲ見タル事アリ其ノ後明治三十三年頃再び流行ヲ來シ日本養兎株式會社ノ設立ヲ見タル等養兎界革新ノ徵アリタルモ日露戰爭ノ爲一時中絶セリ然ルニ同四十一年名古屋市ニ於テ全國養兎品評會ヲ開催シ斯業ノ啓發ニ努メ一方醫學研究用材料トシテ利用セラル、ニ至リシヲ以テ漸次隆昌ニ赴キ最近兎肉、兎毛皮ノ需要增加スルニ至リ更ニ一段ノ盛況ヲ示シツ、アリ

三重縣

大正十二年頃ヨリ北牟婁郡及南牟婁郡ニ於テ農家ノ副業トシテ養兎盛ニ行ハレ續イテ縣一圓ニ普及スルニ至リシモ近時經濟界ノ不振ニ伴ヒ衰退シツ、アリ

滋賀縣

不詳

京都府

明治二十年頃農家ニ於テ飼養セラレタル事アリシモ投機的飼養ニ止マリ後「ペルヂアン」種ヲ購入養兎組合ヲ組織シ獎勵ニ努メタルコトアリシモ確實ナル販路ナキ爲約二ヶ年ニシテ解散セリ然ルニ近年肉ニ對スル需要增加シ亦醫學研究用トシテ販路拓クルニ至リ飼養頭數ノ如キモ漸次增加シツ、アリ

大阪府

大正十三年頃ヨリ漸次飼養頭數ヲ増加シ大正十五年秋ニ至リテ激増セリ一時小禽、食用蛙ト共ニ投機的流行ヲ來タシ法外ノ價格ヲ以テ取引サレタルモ現在ニ於テハ常態ニ復シ堅實ナル發達ノ氣運ニ向ヒツ、アリ

兵庫縣

明治五、六年ノ頃縣一圓ニ養兎流行シタル事アリシモ愛玩ノ域ヲ脱セズ加フルニ奸商ノ跋扈ニ依リテ失敗ヲナス者續出シ遂ニ其ノ跡ヲ絶ツニ至レリ其ノ後數回同様ノ變遷ヲ經テ大正十二年頃ヨリ堅實ナル普及ノ緒ニ就キ爾來漸次隆昌ニ向ヒツ、アリ

和歌山縣

不詳

鳥取縣

文献ノ徵スペキモノナク詳細ヲ知リ難キモ地方ニ依リテハ二十年前ヨリ少數ノ者ニ依リテ飼養セラレタルモノ、如ク當初ハ主トシテ愛玩用ナリシモ近時自家食用ノ傍毛皮ノ販賣ヲナスモノアルニ至レリ

島根縣

不詳

岡山縣

以前ヨリ各地ニ愛玩的飼養アリテ一時流行ヲ來セシモ販賣機關、販路ナキ爲中絶ノ状態トナリ近年ニ至リテ縣及農會ノ斡旋ニ依リテ漸次盛況ニ向ヒツ、アリ

廣島縣

明治二十二年頃ヨリ愛玩用ノ目的ヲ以テ飼養セラレタリシガ其ノ數極メテ少ナリキ其ノ後明治二十三、四年頃一時流行セシモ徒ラニ投機的ニ流レタル爲忽チ衰退シ爾來大正三、四年頃迄ハ一進一退ノ状態ナリシガ歐洲戰役以來軍需品トシテ毛皮ノ販路開拓セラル、ニ及ビ一時勃興セシモ肉ノ利用尠ク且毛皮ノ價格低廉ナル爲殆ド其ノ影ヲ沒スルニ至レリ

山口縣

養兎ノ沿革ハ詳カナラザルモ毛皮、肉ノ利用ヲ目的トスル飼養ハ明治四十年頃ヨリ行ハレシモノニシテ其ノ後盛衰常ナラザリシガ大正七年毛皮ノ需要增加ニ依リ一時盛トナリタルモ價格ノ低下ニ伴ヒテ

衰微シ近年ニ至リテ再び漸増ノ趨勢ニアリ
德島縣
養兎ノ沿革ニ關シテハ詳カナラザルモ約二十年前一時流行ヲ極メタルコトアリ當時ニ於テハ投機的經營ノミニシテ遂ニ衰微シタリシガ數年前ヨリ再び農家ノ副業トシテ勃興スルニ至レリ
香川縣

不詳

愛媛縣

不詳

高知縣

明治三十四、五年頃一時毛用兎ノ飼養盛ニ行ハレタルモ何レモ投機的流行ニシテ之ガ爲破産者ヲ出スニ至リ頓ニ其ノ數ヲ減ゼリ然ルニ大正七、八年ノ頃ヨリ再び飼養盛トナリ一般ニ普及セラレツ、アルモ自家食用或ハ愛玩用トシテ飼養セラル、ニ止マリ副業トシテ認メラル、ノ域ニ達セズ

福岡縣

養兎ノ沿革ニ付テハ特筆スペキ記録ナキモ明治三十年頃ヨリ愛玩的ニ飼養セラレ從テ其ノ數モ僅少ナリシガ輓近毛皮ノ需要增加シ兎肉亦食用ニ供セラル、ニ至リ之ガ副業的飼養ハ農家經濟上有利ナルモ

ノト認メラレ漸次其ノ數ヲ増加スルニ至レリ

佐賀縣

大正十年頃九州養兎獎勵會ナルモノ組織セラレ一時養兎ノ流行ヲ見タルモ其ノ後同會ノ解散シタルト
需要ナキトニ依リ衰退シ現在ニテハ受玩用トシテ少數飼養セラル、ニ過ギズ

長崎縣

大正十一、二年頃各所ニ養兎會社組織セラレ之ガ宣傳ニ依リテ一時勃興セシモ其ノ後取引不振ニ陥リ
シ爲衰退シ現在ニテハ實利的養兎ヲ行フモノナク單ニ愛玩的ニ飼養スルモノアルニ止マル

本熊本縣

從來養兎ハ一進一退ノ狀態ナリシモ近年雜誌其ノ他ノ宣傳ニ依リテ稍增加ノ傾向ヲ示セリ

大分縣

明治三十六、七年頃一時流行ヲ見タルモ漸次衰退シ爾來諸所ニ少數ノ飼養者アリト雖概ネ愛玩的飼養
ニ止マリ未ダ實用ノ域ニ達セズ

宮崎縣

古クヨリ山村僻地ニ於テ趣味的ニ僅少ナル飼養者アリ大正二、三年頃各地ニ飼養者續出セシモ一時的
ノ流行ニ過ギズ忽チ衰退ヲ來タシ其ノ後大正十二年以來稍々勃興ノ氣運ニ向フト共ニ漸次副業化シ輓

近頓ニ増加ヲ來セリ

鹿兒島縣

明治三十四、五年頃一時流行セルモ販路尠キ爲數年ナラズシテ中絶シ其ノ後大正十二、三年頃ヨリ各
所ニ養兎ヲ行フモノアルヲ見ルニ至リシモ未ダ副業ノ域ニハ達セズ

沖繩縣

養兎ノ沿革ハ詳カナラズ唯僅少ノ愛玩的飼養ヲ見ルノミナリ

(口) 道府縣ニ於ケル主ナル飼養地

北海道

空知郡 富良野町

樺戸郡 新十津川村

山越郡 八雲地方

磯谷郡 檜岸地方

釧路郡 釧路村

有珠郡 伊達町

函館市

札幌市
青森縣

三戶郡 八戶町、五戶町、川内村、猿邊村、市川村
上北郡 六戶村、四和村、七戶町、野邊地町、下田村
南津輕郡 藏館村

東津輕郡 大野村、瀧内村、野内村

岩手縣
岩手郡 澄民村

東磐井郡 矢越村、澄民村

上閉伊郡 上郷村

下閉伊郡 津輕石村

宮城縣
刈田郡 越河村、宮村、福岡村

柴田郡 村田町、沼邊村

遠田郡 涌谷町、北浦村、大貫村、富永村

秋田縣
仙臺市 加美郡 鳴瀬村、小野田村、色麻村

栗原郡 北村、野蒜村

桃生郡 潤瀧村

仙平郡

雄鹿郡

勝郡

入澤木村

岩崎町

山形縣

南置賜郡 玉庭村、上長井村、南原村、山上村、萬世村

西置賜郡 蠶桑村、西根村、荒砥町、小國本村、北小國村

東置賜郡 赤湯町、糖野目村、沖鄉村、中川村、上郷村

東山村 山郡 東村、宮生村、中川村、本澤村、堀田村、瀧山村、柏倉門傳村

西山村 山郡 中村、楯山村、干布村

左澤町、西山村、東五百川村

最上郡 金山村、東小國村、八向村、及位村、豊田村

福島縣

青木村、大久保村

福浦村、八幡村

大野村、上岡村

石川町

西鄉村

加納村

茨城縣

稻敷郡

阿波村、朝日村、木原村、長竿村

東茨城郡

堅倉村、小川町、竹原村、橘村

新治郡

石岡町、真鍋町

筑波郡

北條町、小張村、田井村

行方郡

津澄村

多賀郡

關南村、黒前村、磯原町

鹿島郡

高松村

猿島郡

五霞村、幸島村、新郷村

北相馬郡

文村、文間村、六郷村、守谷町、北文間村

結城郡

名崎村、大花羽村、西豊田村、安靜村、下結城村、總上村、玉村

那珂郡

川田村、山方村、長倉村

西茨城郡

七會村
黒澤村、賀美村、小里村、下小川村

久慈郡

大國村、大村、新治村

河内郡

瑞穂野村、城山村、富屋村、篠井村、古里村

芳賀郡

鹿沼町、西大蘆村、南摩村、柏尾村

下都賀郡

大内村、逆川村、七井村、南高根澤村、水橋村

上都賀郡

國分寺村、小山町、生井村、赤麻村、藤岡町

那蘇郡

阿久津村、氏家町、北高根澤村、片岡村

那須郡

大田原町、佐久山町、蘆野町、兩郷村

犬伏町、飛駒村、新合村、旗川村

栃木縣

瑞穂野村、城山村、富屋村、篠井村、古里村
鹿沼町、西大蘆村、南摩村、柏尾村
大内村、逆川村、七井村、南高根澤村、水橋村
國分寺村、小山町、生井村、赤麻村、藤岡町
阿久津村、氏家町、北高根澤村、片岡村
大田原町、佐久山町、蘆野町、兩郷村
犬伏町、飛駒村、新合村、旗川村

神奈川縣

久良岐郡

大岡川村

都筑郡

田奈村

高座郡

寒川村、小出村、有馬村

横濱市

八幡町、八幡林

新潟縣

北蒲原郡

黒川村、金塚村、紫雲寺村、菅谷村、川東村、聖籠村

中魚沼郡

中條村、吉田村、十日町、岩澤村、仙田村

中蒲原郡

村松町、新關村、小須戸町、小合村、大蒲原村

北魚沼郡

千田村、稗生村、堀ノ内町、藪神村、入廣瀬村

東頸城郡

松之山村、菱里村、浦田村、牧村、大島村

富山縣

小津林、甲賀林、鐵南林

下新川郡

浦山村

冰見郡

冰見町、余川村、碁石村、八代村、十二町村

子東郡

福野町

上新川郡

堀川村

羽咋郡

鉢打村

鳳至郡

浦上村

福井縣

小野川村、新川村、大河内村

山梨縣

南巨摩郡

睦合村、富河村

北巨摩郡

鹽崎村、登美村

東八代郡

竹野原村、境川村、黒駒村

西八代郡

榮村、大河内村

長野縣

南佐久郡

平賀村、海瀬村、田口村

北佐久郡

川邊村、協和村、芦田村、大里村、布施村、北大井村、北御牧村

特記すべき地方ナシ

小縣	郡	東内村、神科村、禰津村、和村、青木村、武石村
上伊那郡	南向村、赤穂村、西箕輪村	
下伊那郡	神稻村、大鹿村、富草村、上久堅村、泰阜村、生田村	
東筑摩郡	中川村、麻績村、洗馬村、中丘村、廣丘村、宗賀付	
北安曇郡	松川村	
更級郡	小島田村	
埴科郡	坂城町	
上田市		
岐阜縣		
加茂郡	川邊町、東白川村	
恵那郡	福岡村、付知町、坂下町	
安八郡	結村	
羽島郡	正木村	
山縣郡	葛原村	
武儀郡	關町	

靜岡縣		
濱名郡	新居町、雄踏町、伊佐見村、新所村	
引佐郡	奥山村、鹿玉村	
愛知縣		
西加茂郡	舉母町、三好村	
渥美郡	赤羽根村、野田村、田原町	
名古屋市		
三重縣		
名賀郡	古山村、矢持村、上津村	
北牟婁郡	尾鷲町、相賀村、三野瀬村、長島町、引本町	
南牟婁郡	新鹿村、神志山村、飛鳥村、阿田和村、神川村、市木村	
滋賀縣	宮村、北柚村、長野町、岩根村、大原村、伴谷村	
甲賀郡		
高島郡	川上村、朽木村	
京都府		

仁多郡 横田村、馬木村、阿井村、鳥上村、布勢村
食飯味石郡 一宮村、三刀屋村、掛合村、多根村、赤名村
鹿足郡 青原村、七日市村

岡山縣 上房村
上道村
雄神村
共和村

小田郡 竹田町、金浦町、大江村、稻倉村、北川村
笠岡町、伊里村、三國村、片上町

廣島縣 真庭郡
和氣郡
神根村、伊里村、三國村、片上町

蘆品郡 蘆品町、服部村、戸手村、廣谷村、常金丸村
府中町、久米村、富岡村
光井村

深安郡
市

福山市 神根村、伊里村、三國村、片上町
笠岡町、金浦町、大江村、稻倉村、北川村
笠岡町、伊里村、三國村、片上町

山口縣 熊毛郡
濃波郡
佐波郡
阿武郡
美濃郡
佐賀郡
阿馬郡
三好郡
麻植郡
那賀郡
立江町
三名村

島德縣 熊毛郡
濃波郡
佐波郡
阿武郡
美濃郡
佐賀郡
立江町
江原村、半田町
生雲村、彌富村、福川村、地福村

香川縣 德島縣
綾歌郡
仲多度郡
小豆郡
土庄町
川郡
坂出町
廣島村
土庄町

愛媛縣

宇摩郡 川瀧村
周桑郡 櫻樹村

高知縣

特ニ盛ナル地方ナシ

福岡縣

早良郡 姪濱町 直方町
鞍手郡 半田町

福岡市

門司市 大木林、櫟林、櫻林、楓林、楓葉林

佐賀縣

長崎縣 東彼杵郡 大村
大分縣 西彼杵郡 矢上村、黒崎村、喜々津村

特記スペキ地方ナシ

長崎縣

東彼杵郡 大村
大分縣 西彼杵郡 矢上村、黒崎村、喜々津村

北高來郡 小諫早町

南高來郡 島原町

熊本縣

特記スペキ地方ナシ

大分縣

北諸縣郡 三股村、高崎村
西諸縣郡 小林町、高原村

兒湯郡 西米良村
西臼杵郡 諸塙村、三ヶ所村

宮崎縣

都城市 宮崎市、鹿児島市、熊本縣、大分縣、宮崎縣、鹿兒島縣

鹿兒島縣

高麗原林、東風平林、玉林、櫻林、楓林

都城市

鶴見林、山林、櫻林、楓林、楓葉林

沖繩縣

島尻郡
南風原村、東風平村、王城村、豊見城村

(八) 主ナル種類及其ノ分布狀況

種類	府	道	縣
白色在來種			
ベルザアン種	北海道、秋田、群馬、埼玉、富山、大阪、廣島、香川		
メリケン種	青森、山形、千葉、東京、長野、岐阜、靜岡、愛知、三重、大阪、兵庫		
イタリアン種	山形、福島、群馬、東京、長野、兵庫		
雜種	山形、茨城、群馬、埼玉、東京、石川、愛知、三重、滋賀、大阪、奈良、鳥根、岡山、山口、德島、愛媛、長崎、宮崎、鹿兒島、沖繩		

備考 本表ノ種類中雜種トアルハ主トシテ本邦在來種ト外國種トヲ交配セルモノトス

五 兔肉、兔毛皮ノ主ナル需要者及加工業者竝其ノ取扱數量

四三

同	長	同	富	同	同	新	同	同	神	同	同	同	同	同	東	大	千	同	同	埼
野		山		潟		縣		奈		川		縣		京		葉		玉		縣
縣		縣		縣				縣						府		縣				
一	六	村	田	荒	池	深	舍	松	阿	相	松	山	山	伊	山	會	大	步	坂	
六	屋	田	中	井	田	井	川	原	部	澤	蘭	中	中	東	中	日本	日本	兵	本	
兔	兔	兔	幸	政	慶	田	秀	商	保	敏	淨	長	吉	毛	常	養	大	第五	羽	
肉	肉	肉	次	次	太	寅	藏	商	田	雄	淨	七	五	皮	五	兔	日本	九	王	
店	店	店	郎	郎	郎	策	店	店	商	藏	七	七	郎	被	郎	獎	聯	鐵	本	
松	本	市	下	新	川	郡	浦	山	村	同	北	蒲	足	陸	軍	中	會	步	鳥	
本	市		新	川	郡	原	原	原	商	同	原	原	立	軍	軍	常	日本	兵	羽	
落	落		津	郡	郡	郡	郡	郡	店	同	原	原	郡	被	五	五	日本	兵	王	
合	合		町	十	十	發	發	發	店	同	村	村	千	服	常	常	日本	兵	吉	
村	村		射	水	水	田	田	田	商	同	松	松	住	廠	五	五	日本	兵	坂	
落	落		大	島	島	町	町	町	店	同	町	町	町	廠	七	七	日本	兵	本	
合	合		下	新	川	郡	浦	山	村	同	同	同	同	同	七	七	日本	兵	羽	
村	村		浦	山	山	村	村	村	村	同	同	同	同	同	七	七	日本	兵	王	
村	村		山	山	山	村	村	村	村	同	同	同	同	同	七	七	日本	兵	吉	
村	村		村	村	村	村	村	村	村	同	同	同	同	同	七	七	日本	兵	坂	
村	村		村	村	村	村	村	村	村	同	同	同	同	同	七	七	日本	兵	本	
村	村		村	村	村	村	村	村	村	同	同	同	同	同	七	七	日本	兵	辰	
村	村		村	村	村	村	村	村	村	同	同	同	同	同	七	七	日本	兵	五	
村	村		村	村	村	村	村	村	村	同	同	同	同	同	七	七	日本	兵	郎	

六 養毛ニ關スル主ナル團體

愛知縣養兔副業組合		岐阜縣					木島村養兔組合				
静岡縣	新井町副業組合	豚川邊組町合養	養山兎之組上合村	蛭川養兔組合	副付業組知町養兎	用養兎販賣組	有限責任岐阜縣	太田村養兔組合	赤鹽養兔組合	平野村養兔組合	木島村
名古屋市瑞穂町	濱名郡新井町	安八郡結村	同川邊町	加茂郡山之上村	同蛭川村	惠那郡付知町	岐阜市神室町	下水内郡太田村	上水内郡三水村	同平野村	同木島村
大正十五年七月	昭和二年一月	昭和二年三月	昭和八年十二月	大正八年十月	昭和二年二月	同十五年九月	大正十三年十二月	同十三年十二月	同十四年十二月	同十五年十月	同十五年四月
三〇〇	八〇〇	二、五〇〇	一、〇〇〇	二、四〇〇	三五〇	一、三〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇	五〇〇	四〇〇
賣幹旋、種兔分譲、兔肉販	幹購入、種兔場設置、生產物販賣	生產物共同販賣、講習會開催	生料共同購入、講習會開	品評會、共同販賣、	產物共同購入、配付、	種兔購入改良、兔毛	品種改良、兔毛	生產物販賣幹旋、	飼料共同購入、生	品種改良、生產	飼料共同購入、生
雜草、糞、粕	雜草、蔬菜類、菜	粕雜草、雜穀、豆腐	豆、腐粕、雜草、穀	青草、麥、糞	穀雜草、糞、米糠、	屑雜草、穀物、野菜	雜草、雜穀	雜草、大豆粕	雜草、豆類、雜	雜草、蔬菜	粕雜草、蔬菜、豆腐

家住氏族員數所名 渡邊順治
仙北郡豊川村八幡林三十九番地
十三人 内子供五人

備
考

岩手、群馬、石川、福井、山梨、滋賀、京都、和歌山、廣島、山口、德島、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎及沖繩ノ各府縣ハ養兎ニ關スル團體ニ付テハ報告ナシ

七 農家二於ケル養兔經營事例

	鳥取縣 手間村三崎合	烏根縣 掛合村養兔組合	岡山縣 雄神組合村	岡山縣 養兔組合	鹿兒島縣 獎勵會
計 七十二團體	西伯郡手間村 大正十五年三月	飯石郡掛合村 大正十五年十二月	上道郡雄神村 大正十四年三月	大正十五年四月	町鹿兒島市上荒田 大正十四年三月
	四 三、五四	三 二、五〇	二四 一四	二四 一四	三 二、六三
	種兔購入、生產物共同販賣、開催販賣斡旋、講習會	種兔購入及分讓、組合員生產兔購入	大豆腐粕、雜穀類、大豆腐粕	大豆腐粕、雜草、蔬菜屑、豆腐粕	青草、殘滓物

飼養管理 者	營兎經營ノ動機	營兎生産物ノ販賣方法及自家消費ノ概況	最近一ヶ年ニ於ケル經營支ノ大要	秋田縣
渡邊順治	主業ノミニテハ收支償ハザルヲ以テ副業トシテ養鶏養豚ヲ行ヒツ、アリシモ村農會ノ指導獎勵ニ依リ養兎ノ有利ナルヲ知リ養兎ヲ經營スルニ至レリ	生兎及兎毛皮ハ鶏兔飼育組合ニ委託シ共同販賣ナス、兎肉ハ冬季ニ於テ海產物ト交換スルノ外自家ノ食膳ニ供ス	仔兎販賣額 仔兎百十頭、一頭〇・四〇〇宛 毛皮販賣額 八十五貫 收入之部 仔兎販賣額 一九五〇〇 毛皮販賣額 五二・五〇〇 計 二九一・五〇〇 支出之部 飼養箱購入代 一二・五〇〇 兔舍修繕費 三一・二〇〇 計 七四・一〇〇 差引利益金百七十三圓七十錢 三十七枚分 五〇箱代	仔兎販賣額 仔兎百十頭、一頭〇・四〇〇宛 毛皮販賣額 八十五貫 收入之部 仔兎販賣額 一九五〇〇 毛皮販賣額 五二・五〇〇 計 二九一・五〇〇 支出之部 飼養箱購入代 一二・五〇〇 兔舍修繕費 三一・二〇〇 計 七四・一〇〇 差引利益金百七十三圓七十錢 三十七枚分 五〇箱代

飼養管理 者	營兎經營ノ動機	營兎生産物ノ販賣方法及自家消費ノ概況	最近一ヶ年ニ於ケル經營支ノ大要	群馬縣
栗原又虎	佐波郡島村一、四三五番地	生兎ノ儘販賣セズ毛皮ハ乾皮トシテ横濱ノ專業者ト直接取引ナシ肉ハ地方ニ行商販賣チナスニ至レリ	仔兎販賣額 一九五〇〇 兔舍消却金 一〇〇〇〇 借地小作料 二五・〇〇〇 飼料費其ノ他雜費 二〇〇・〇〇〇 計 一、三二五・〇〇〇	毛皮代 一、五五〇・〇〇〇 兔肉代 二四〇・〇〇〇 仔兔賣却代 一二五・〇〇〇 計 一、九一五・〇〇〇 家族六人手間賃 一〇〇・〇〇〇 兔舍消却金 一〇〇・〇〇〇 借地小作料 二五・〇〇〇 飼料費其ノ他雜費 二〇〇・〇〇〇 計 一、三二五・〇〇〇

飼養管理 者	營兎經營ノ動機	營兎生産物ノ販賣方法及自家消費ノ概況	最近一ヶ年ニ於ケル經營支ノ大要	千葉縣
杉田アキ	印旛郡八街町字西林二四二番地	生兎ハ仲買人ニ販賣ス自家ニテ消費スルハ兎肉ヲ食用ニ供スルノミナリ シ得ラル、チ以テ農家ノ副業トシテ有利ナルヲ自覺シ經營スルニ至レリ	仔兎販賣額 二一・〇〇〇 兔肉販賣額 三八九・一〇〇 自家食用兎ノ見積額 一八・五九〇 計 四七四・六九〇	毛皮代 一、五五〇・〇〇〇 兔肉代 二四〇・〇〇〇 仔兔賣却代 一二五・〇〇〇 計 一、九一五・〇〇〇 家族六人手間賃 一〇〇・〇〇〇 兔舍消却金 一〇〇・〇〇〇 借地小作料 二五・〇〇〇 飼料費其ノ他雜費 二〇〇・〇〇〇 計 一、三二五・〇〇〇

八道府縣ニ於ケル獎勵施設

種畜場ニ於テ種兔ノ拂下ヲ行ヒ種類ノ改良、品種ノ統一及飼養頭數ノ増加ヲ圖リツ、アリ

兵庫縣		氏族員數所名		家畜管理者		飼養經營ノ動機		營收支ノ大要		營兎生産物ノ販賣方法及自家消費ノ概況		最近一ヶ年ニ於ケル經營		
		長谷川朝一	八人	長谷川朝一外子供一人	從來ヨリ愛観的飼養ハ行ヒツ、アリタルモ近年其ノ用途ノ實用的ニシテ將來有望ナルヲ知リ副業トシテ經營スルニ至レリ	生兎ハ神戸市油谷音次郎及井戸虎雄ニ賣却ス自家消費ハ一ヶ年約六頭ナリ								
營兎生産物ノ販賣方法及自家消費ノ概況	營收支ノ大要	最近一ヶ年ニ於ケル經營	營收支ノ大要	營收支ノ大要	營收支ノ大要	營收支ノ大要	營收支ノ大要	營收支ノ大要	營收支ノ大要	營收支ノ大要	營收支ノ大要	營收支ノ大要	營收支ノ大要	
收入之部	成兔販賣額	三七五〇〇円	仔兔販賣額	二五〇〇〇円	二五〇頭分									
支出之部	飼料費	四〇〇〇〇円	計	一二三〇〇〇円	五〇〇〇〇円	計	一二八〇〇〇円	計	八四〇〇〇円	三〇〇〇〇円	六〇〇〇〇円	計	一七一〇〇〇円	
差引利益金	計	二百七十二圓												

長野縣		氏族員數所名		家畜管理者		飼養經營ノ動機		營收支ノ大要		營兎生産物ノ販賣方法及自家消費ノ概況		最近一ヶ年ニ於ケル經營	
		堀内辰彌	三人	堀内辰彌	三人	東筑摩郡芳川村小屋	三人	堀内辰彌	二人	從來ヨリ愛観的飼養ナナシツ、アリシモ大正十年頃ヨリ肉ノ需要頓ニ增加セルヲ以テ規模ヲ擴張シ實用的ニ飼育スルニ至レリ	從來ヨリ愛観的飼養ナナシツ、アリシモ大正十年頃ヨリ肉ノ需要頓ニ增加セルヲ以テ規模ヲ擴張シ實用的ニ飼育スルニ至レリ	大部分ハ組合ヲ通ジテ共同販賣シ一部ハ仲買人ニ販賣ス	大部分ハ組合ヲ通ジテ共同販賣シ一部ハ仲買人ニ販賣ス
收入之部	箱	成兔販賣額	一三五〇〇〇円	收入之部	箱	成兔販賣額	一三五〇〇〇円	收入之部	箱	成兔販賣額	一三五〇〇〇円	收入之部	箱
支 出 之 部	飼 料 費	計	八四〇〇〇円	支 出 之 部	飼 料 費	計	八四〇〇〇円	支 出 之 部	飼 料 費	計	八四〇〇〇円	支 出 之 部	飼 料 費
差引利益金	計	二百二十四圓十九錢	差引利益金	計	二百四十九圓九錢	差引利益金	計	差引利益金	計	差引利益金	計	差引利益金	計

組合設置ヲ獎勵シ生兎、兎毛皮及兎肉ノ販賣斡旋ヲナシツ、アリ

岩手縣

一般副業獎勵費ヨリ適當ト認ムル團體ニ對シ助成金ヲ交付ス

宮城縣

組合ニ於テ種兎購入ノ際適當ト認ムルモノニ補助金ヲ交付ス

秋田縣

國庫ノ補助ヲ受ケテ適當ナル組合ヲ助成スルノ外講習講話會ニ對シ講師ヲ派遣ス

山形縣

縣農會ヲ通ジテ適當ト認ムル團體ニ對シ補助金ヲ交付ス

福島縣

優良種兎ノ無償配付ヲ行ヒ且組合ノ優良ナルモノニ獎勵金ヲ交付ス

茨城縣

組合ニ於テ種兎購入ノ際國庫補助ニ依リ縣農會ヲ通ジテ補助金ヲ交付ス

埼玉縣

養兎ニ關スル印刷物ヲ配布スルト共ニ講習講話會ヲ開催ス

千葉縣

委託種兎場ヲ設置シ仔兎ノ配布ヲ行フト共ニ優良團體ニ對シテ獎勵金ヲ交付ス

新潟縣

兎肉、兎毛皮ノ販賣斡旋並講習講話會ノ開催ヲ行ヒツ、アリ

長野縣

適當ト認ムル團體ニ對シ種兎及獎勵金ヲ交付ス

岐阜縣

副業獎勵ノ爲優良團體ニ補助金ヲ交付ス

靜岡縣

組合ニ於テ共同施設ヲナス場合補助金ヲ交付ス

愛知縣

組合設置ノ際及組合ニ於テ共同施設ヲナス場合補助金ヲ交付ス

三重縣

國種畜場ニ於テ種兎ヲ飼養シ其ノ生産兎ヲ希望者ニ配布シツ、アリ

兵庫縣

養兎組合ノ設置ヲ獎勵シ既設組合ニ對シテハ事業費ノ約一割五分ヲ補助ス

岡山縣

養兎經營及生産物販賣ニ付指導シツ、アリ

徳島縣

養兎生産物ノ販賣斡旋ヲナシツ、アリ

九 養兎ノ將來

北海道

本道ハ氣候ノ關係上毛皮ノ必要ナルハ言ヲ俟タズ簡易ナル製鞣法ノ普及ニ伴ヒ將來ハ一層其ノ需要ヲ增加スペク亦兎肉ニアリテハ未ダ需要多カラザルモ生活ノ向上ト相俟チテ漸次增加スペシ

青森縣

養兎ノ飼養ハ一般農村ニ普及シ現在ノ農家ノ餘剩勞力ヲ以テ充分管理シ得ルノミナラズ兎毛皮ハ近時好況ヲ示シ且兎肉ノ加工並需要ハ逐年增加ノ趨勢ニアルヲ以テ今後農家ノ副業トシテ益發達セム

岩手縣

養兎生産物ハ販賣價格ノ高低ニ支配セラレ利益多カラザル現況ナリト雖需要逐年增加ノ傾向ニアル

宮城縣

優良種ノ普及ヲ圖リ飼養管理法ノ指導ヲ行フト共ニ組合組織ニ依リテ生産物ノ共同販賣ヲナサシムルニ於テハ農村副業トシテ普及發達ノ見込アリ

秋田縣

養兎ハ漸時增加ノ傾向ニアリテ農家ニ於テ摯實ナル經營ヲナスモノハ相當ノ收益アルモ將來ニ於ケル盛衰ハ兎皮ノ價格ニ左右セラルベシ

山形縣

近時養兎ハ稍流行的傾向ナキニアラザルモ兎皮價格ノ變動ナキ限り漸次堅實ナル副業トシテ農業經營上發達スペキ可能性アリト認ム

福島縣

農家ノ副業トシテ獎勵ノ益發展スペク尙生産物販賣ニ當リテハ共同販賣ヲ獎勵スルノ要アリト認ム

茨城縣

農家副業トシテ獎勵ノ要アルモ投機的ニ多數ヲ飼養スルハ經濟上危險ヲ伴フニ依リ農家ノ事情ニ應ジ制限スルヲ要ス

栃木縣

近時兎毛皮ノ需要激増ト共ニ兎肉ノ需要モ增加ノ趨勢ニアルヲ以テ農家ノ副業トシテ發達スペシ

群馬縣

農家ノ副業トシテ好適ナリト雖大規模ノ經營ハ考慮ヲ要スベシ而シテ兎肉、兎毛皮ノ販路確實トナリ相當ナル價格ヲ維持スルニ至ラバ將來益普及スペシ

埼玉縣

農家ノ副業トシテ有利ナルベキモ未ダ兎肉ノ需要普及スルニ至ラザルヲ以テ之ガ增加ト相俟チテ發達スペシ

千葉縣

生兎ハ醫學研究用トシテ需要多ク兎肉モ又需要增加ノ傾向ニアリ殊ニ軍隊、工場等ニ供給ノ便アリ頗ル有望ナリ

東京府

農家ノ副業トシテ有望ナリ

神奈川縣

兎肉、兎毛皮ノ需要著シク增加セルヲ以テ將來相當發展ノ見込ナリ

新潟縣

農家ノ副業トシテ獎勵スルト共ニ生産物ノ共同販賣ヲ行ハシメムトス

富山縣

毛皮、肉ノ供給上ヨリ又農家經濟上ヨリシテ養兎ハ等閑ニ付スベカラズ需要供給ノ圓滑ヲ講ズルト共ニ之ガ飼養ノ普及ヲ圖ルハ當面ノ急務ナリト信ズ

石川縣

兎肉ノ需要增加スレバ發展ノ見込アリ

山梨縣

飼養ノ普及、生産物販賣法、養兎組合組織等ニ付指導ヲ要ス

長野縣

近年毛皮ヲ製鞣シテ防寒用具トナシ又兎肉ノ需要モ漸次增加シ來リシガ未ダ生産物ノ販賣並加工等ニ於テ遺憾ノ點少ナカラズ依テ兎毛皮ニアリテハ其ノ販路ヲ擴張シ之ガ加工ヲ獎勵スルト共ニ兎肉ノ消費ヲ促進セシムルニ於テハ今後益發展ノ餘地アリ

岐阜縣

養兎ハ家庭ノ副業トシテ有利ナルモノニシテ之ニ關スル團體ヲ組織シ種類ノ統一ヲ圖リ生産物ノ共

同販賣並毛皮ノ加工等ヲ行フニ至ラバ將來穩健ナル發達ヲ見ルニ至ルベシ

靜岡縣

兎肉、兎毛皮ノ需要增加セバ發達ノ見込ナリ

愛知縣

兎肉、兎毛皮ノ需要ハ一般生活ノ向上ニ伴ヒテ增加スペク殊ニ兎毛皮ニアリテハ輸出品タルノミナラズ加工原料品トシテ需要アルベク農家ノ副業トシテ頗ル有望ナリト認ム

三重縣

兎肉、兎毛皮ノ需要極メテ多ク且飼養管理容易ニシテ飼料安價ナルヲ以テ農家ノ副業トシテ獎勵セムトス

京都府

近時兎肉、兎毛皮ノ需要漸次增加シ來タレルヲ以テ將來普及發達スベシ

大阪府

兎肉ノ需要ハ近時頓ニ増加シ毛皮ハ防寒材料トシテ海外ニ輸出セラレ又軍隊ニ於テ相當需要セラルヲ以テ將來毛皮及肉ヲ目的トシテ堅實ナル發達ヲナサバ養兎事業ノ前途頗ル有望ナルモノト認ム

兵庫縣

兎毛皮ハ近時需要頗ル多ク且兎肉ニアリテハ軍隊、工場會社等ニ供給スルノ途アルヲ以テ將來農家ノ副業トシテ益發達セム

奈良縣

農家ノ副業トシテ有望ナリト認ム

鳥取縣

從來ノ養兎ハ流行的ニシテ堅實ヲ缺キタルモ今後需給圓滑トナルニ至ラバ農家ノ堅實ナル副業トシテ有望ナリ

岡山縣

安價ナル飼料ヲ得且生産物ノ販路ヲ需メ得ルニ於テハ將來發展ノ見込アリ

廣島縣

兎肉、兎毛皮ノ販路開拓セラル、場合ハ有望ナル副業ト認ム

山口縣

販賣ノ圓滑ヲ圖リ飼養獎勵セムトス

德島縣

指導宜シキヲ得バ一部ノ地方ニ有望ナリ

香川縣

生産物ノ共同販賣又ハ斡旋ヲナスニ於テハ相當有望ナラム

愛媛縣

卷之三

農家ノ副業トシテ有望ナリト認ム

福 周 縣

佐賀縣

將來人見過少

從來漁業盛ナル爲養兎ハ發展ノ見込少シ

熊本縣

大分系

卷之三

將來人見過少

將來副業トシテ

鹿兒島縣

中
羅
孫

今後ノ市況如何ニ支配セラルベシ

卷之三

附記

兔毛皮ノ輸出狀況

近年本邦ニ於ケル養兔業ノ漸次隆昌ニ向ヒツ、アルハ主トシテ兔毛皮ノ海外輸出增加セルニ因ルモノニシテ本邦產白色兔毛皮ノ九割ハ輸出ニ向ケラレ内約八割ハ米國ニ其ノ殘餘ハ歐洲諸國ニ輸出セラル、ノ狀況ナリ

從テ米國ニ於ケル兔毛皮ノ需要如何ハ直ニ本邦兔毛皮貿易ニ重大ナル影響ヲ及ボス處ニシテ大正九年頃ヨリ米國ニ對スル兔毛皮ノ輸出增加シ大正十三年ニ至リ其ノ價格著シク昂騰シ大正十四年春期ニ於テ其ノ絶頂ニ達シ白色兔毛皮ノ普通品ニシテ一枚猶三圓五十錢ノ高値ヲ唱フルニ到レリ然ルニ其ノ後米國ニ於ケル兔毛皮流行ノ變遷ニ伴ヒ白耳義、濠洲及佛蘭西等ノ生產兔毛皮多數輸入セラル、ニ至リ本邦產兔毛皮ニ對スル需要漸ク減ジ其ノ價格ノ如キモ現在ニ於テハ一枚平均一圓内外ニ低下セリ

最近米國ニ於ケル兔毛皮輸入數量ハ一ヶ年一億枚以上ニ達シ彼國ニ於ケル之ガ加工技術ノ發達並購買力ノ增大ニ伴ヒ益增加スルノ狀況ナリ

本邦產兔毛皮ハ其ノ品質一般ニ良好ナルモ其ノ形體ニ於テ歐洲品ニ劣ルノ缺點アルノミナラズ之ガ輸出商中屢契約違反ハ不正行為ニ出ヅル者アリ爲ニ信用失墜シ先物取引甚ダ困難ナル狀態ニシテ尠カラズ斯業發達上障害トナレルモノアルヲ以テ將來之等ノ點ニ對シ改善ノ要アリ

最近三ヶ年間ニ於ケル兔毛皮輸出額

年 次	數	量	價	額
大正十四年	同	不詳	二四〇、一九四・一〇〇	
昭和十五年	同	一、三七八、二二七枚	五二二、二一五・二一七	
同二年	同	二五、〇七九斤	一、七六三、六八〇・七三四	

備考 右ハ税關報告ニ依ル

最近二ヶ年間ノ米國ニ於ケル兔毛皮輸入狀況

輸入先年次	一九二五年	一九二六年
白濠耳義洲	四八、二八九、二九二枚	四四、九九四、五七一枚
	一九、二八三、五九九	二一、九三一、七六三

英佛新加支獨日其
ノ他ノ諸
奈西蘭
國本逸那陀蘭西國
計

一一、五二八、三八六
一一、八九九、〇四四
八、一五八、〇七八
一、八九四、〇一八
七九九、七二〇
五五三、八七四
五三二、一〇六
一、五六七、三九一
一〇五、五〇五、五〇八

一三、二〇七、五九八
一三、一四、五二一
六、九六九、八五三
二、三二七、五二一
六二九、二七一
二、四一七、二九四
三一六、七七九
三、七五九、四八一
一〇九、六六八、六五二

昭和四年三月廿八日印刷
昭和四年三月三十日發行

農林省畜產局

印刷者 石井精一郎
印刷所 東京市京橋區岡崎町二丁目三十番地
安信舍印刷所
電話京橋二四九四番

終

